

## 【歴史秘話】

” 幻の日米高校野球大会 ” の計画があきらかに

南華新報など複数の香港メディアが伝えたところによると、E・J・Summerden 元職員が流出させた機密文書のなかに、第二次世界大戦中に開催されるはずであった”幻の日米ハイスクール・ベースボール大会”に関する日米野球関係者の往復書簡が含まれていたことが昨日あきらかになった。

記事によると、1940 年晩秋から 1943 年初夏にかけて戦争という緊迫した情勢のなか、日米双方の野球関係者がこの大会の実現にむけ水面下で秘かに活動していた状況がうかがえるという。

記事には、個々の書簡の詳しい内容までは書かれていないが、1941 年 8 月付の日本側からの手紙では、この年の夏の甲子園大会が国内事情により中止となった代わりに、ハワイで日米のハイスクールベースボール決勝大会を開催できないかと打診があり、米国側も前向きに検討すると返信していた。

しかしながら、このような日米野球界の友好関係は戦争状態に突入していた当時の両国政府にとって民衆の反戦運動の高まりや戦意喪失にもつながりかねないとの判断から、日米双方ともに一般国民には何も知らされることはなく、両国の秘密情報機関の暗躍によって、大会の計画そのものがないものとされていったという。

公表された今回の資料は、当時の情報機関に保管されていた内部資料が何らかの不手際によって別の書類の一部に紛れこんでしまった可能性が高いと指摘されている。

#### 日米野球史に詳しい齋藤教授（89）の談話

「ついに見つかりましたか。これは大変な資料が出てきたものですナ。長年にわたる深い霧がいきに晴れました。この大会の計画について調べはじめたころは、関係者と思われる方々が次々と不審な最期をとげられ、私自身の周辺にも危険が及び、一時は研究生活を断念しようと思っていました。何しろ大変な資料です」

日米野球交流史の暗黒時代の解明によようやく一筋の光が見えてきた。

（文責・杉山）

## 【現代実話】

### 夏の甲子園大会、台湾代表が出場へ

台湾棒球子合同新聞などによると、台湾の棒球協会は今年の第 96 回夏の甲子園大会に台湾代表チームを出場させるよう日本側から非公式に求められていることを昨日あきらかにした。

これは、甲子園球場が今から 90 年前の 1924 年(大正 13 年)に完成した記念行事の一環として企画されたもので、当時の甲子園大会に参加していた韓国や中国にも同様の依頼があったとみられる。

台湾関係者の話…突然のことで驚いている。まだ何も決まっていないが、仮に出場するとなれば6月の全国大会で優勝したチームを派遣することになるだろう。日本の高校野球のレベルは非常に高いが、我々としても正々堂々と全力でプレーしたい。

実現すれば高校野球の歴史に新たなページが書き加えられることになる。(文責・菅原)

## 【独自取材】

夏の甲子園大会、「ウラ」決勝戦が実現へ

今年の夏の甲子園大会から「ウラ」決勝戦の実施を検討していることが関係者への取材であきらかになった。

聞きなれない「ウラ」決勝戦とは、夏の甲子園大会の決勝まで勝ち上がった2チームに負けた学校をトーナメント表上で、地方予選の初戦まで逆にたどり、負け下がった2チームにより行われることになるという。

関係者によると、去年の選手権大会の終了後に東北地方のひとりの女子マネージャーから要望書が届いたことが検討のきっかけとなった。

要望書を書いた女子マネージャーの話…私は、全国の高校球児が今よりも希望を持てるようになればと願い手紙を書きました。

関係者の話…ともすれば勝利至上主義に陥りがちな昨今の風潮に警鐘を鳴らす意味から「高校野球は教育の一環」という原点に立ち返って、前向きに検討している。

仮に「ウラ」決勝戦が実現すれば、これまでとは全く違った意味で高校野球の良さが見直されることにつながるが、反面で一部の過激なマニアによる悪意ある風評被害の広がりも懸念されており、「ウラ」決勝戦が本当に実現するのか疑問視する専門家も多い。 (文責・木村)